

MADURO × 納得住宅工房

MADURO

STYLE



Vol 3. MADURO STYLEの家創り。 イタリア買い付けの旅

MADUROなパパが一番大切な家族と一番大切な時間を過ごす場所といえば、“家”。
家族とより良い幸せな時間を共有するための一軒家のヒントを得るべく、今回はイタリアへ行ってきました。

イタリアバイヤー紀行① 「casa bath @チェルサイエ編」

MADURO STYLEの家創りに必要な上質な建材を探しに、イタリアまでバイキングに行ったお話を4回に渡り対談。納得住宅工房の久保社長に加えて、納得住宅工房のグループ会社としてMADURO STYLEの家を全国に展開するための納得スタイルホーム星野社長がバイヤーとして展示会に参戦しました！

久保 今回、久保社長と星野社長が訪れたイタリアのチェルサイエとは、どういう展示会なのでしょう？

星野 チェルサイエとはセラミカ、つまりイタリア語でセラミックという意味で、イタリアのポローニャで毎年行われる世界的な見本市です。納得住宅工房グループでは、日本でこれまで仕入れができなかったイタリアの上質な洗面化粧台やバス&キッチン回り、タイルなどを探して買い付けています。

久保 そうなんですね！ イタリアにおけるインテリアの展示会はミラノサローネが有名ですが、チェルサイエは水回りに特化した見本市なんですね。

星野 ミラノサローネはインテリアの最新トレンドを知るための展示会。対してチェルサイエは実際に住居回りの最新の商品を買付けするための見本市。ファッションに例えると、ミラノサローネはミラノコレクション、チェルサイエはビットイ・ウオモといったところですね。ミラノサローネにも毎年行っておりますが、チェルサイエのは



casa bathの洗面化粧台はすべて手作業。人工大理石をひたすら手で磨くことにより、滑らかで美しいシンクが完成します。

うがリアルで実のある展示会なんです。

久保 わかりやすいです。いつ頃から買い付けに行っているのですか？

星野 私は前職から納得住宅工房に関わってイタリアに16年住んでいたのですが、前職からのキャリアを合わせるも20年近くですね。納得住宅グループとして行くようになってから10年経ちます。そもそも私は、納得住宅グループの標準仕様となっているイタリアの洗面台ブランド「casa bath（カーザバス）」の日本エリアマネージャーで、納得住宅工房に売る立場の人間でした。思い返せば見本市に来場される建築家や設計士の中で一番強く興味を示してくれたのが、納得住宅工房社長で建築家の久保でしたね。

久保 2人にそんな経緯があったんですね！しかし、これまで取材してきた久保社長設計デザインの一軒家を思い返すと機能的でシンプルにしてセンスのいい素材や高品質なパーツ使用など、ディテールの上質さもすごく印象に残っています。とりわけトイレや

バス、キッチンなど水回りには並々ならぬこだわりを感じました。ちなみに今回は何を買い付けたいのでしょうか？

久保 やはり、第一にcasa bathの洗面化粧台です。毎日使うものなので、見た目や機能はもちろん、手触りも良くないと気持ち良くありません。casa bathは、樹脂と鋳物を混ぜた人造大理石製の洗面台を、職人にして代表のアレッサンドロがひたすら手で磨いて仕上げています。この曲面をみてください。アレッサンドロが納得いくまで磨きあげるから、こんなに滑らかなんです。今回はMADURO STYLEのために天然の大理石でシンブルに作れないかと交渉してきました。

星野 他にもcasa bathでは、ガラスドア仕様のクローゼットも注文してきました。もともとは兄弟で営んでいた家具メーカーだけあって、水回り以外のクオリティもお墨付きです。

久保 あとポローニャ近郊にあるタイルメーカーで、センスのいいタイルも仕入れできました。木に見えて実はタイルという新商品なんです。

久保 それはやはり水回りで使われるんでしょうか？

久保 よくお気付きです。タイルだから衛生面にも優れているし、水が撥ねても拭きだけでいいからお手入れも簡単。費用的な面を鑑みても、トイレや洗面所などの小面積で効かすのがベストだと思っています。他にも、玄関や和室などのアクセントとなる床や壁にポイントで使うのも有効です。

久保 納得住宅工房の隠れたハイライトである水回りが進化を遂げて、MADURO STYLEに採用された空間が今からとても楽しみです。

イタリアバイヤー紀行② 「ジョルジオ グラエサン @イタリア・ミラノ」

毎年、納得住宅工場の久保社長をはじめ、家創りのプロが住居回りの上質な最新建材を買い付けるために訪れているイタリア。イタリア住宅バイヤー紀行の第2回目は、チェルサイエ会場のあるボローニャから約200km西にあるファッションの街、ミラノで上質な塗り壁材を探してきました。



今回、久保社長がイタリアで見つけた「ジョルジオ グラエサン」の塗り壁。納得住宅工房で使用している漆喰の壁など、壁へのこだわりは人一番です。

久保 納得住宅工場の壁は、漆喰の塗りが標準。漆喰は高い調湿性能を有しているので、夏はさわやか、冬は嫌な結露もなく、本当に快適に過ごせます。さらに傷が目立ちにくく、仮に削れてしまったとしても、そこだけ塗り直せばいい。トイレに使用している薩摩霧島壁には加えて防臭調湿機能まで備わっているため、イヤなニオイが

こもりません。霧吹きで水を吹きかけても一瞬で乾くほどの速乾機能まで持ち合わせているため、お手入れもラク。どうして日本の住宅はクロス張りが一般的なのか、全くもって理解しかねます。でも、イタリアの住宅は塗り壁が中心です。今回MADURO STYLEの家にマツチするような新しい塗り壁をイタリアはミラノで見つけてきました。

久保 家具やインテリア製品だけでなく、塗り壁をイタリアまで買い付けに行くという発想は、なかなかぶっ飛んでいますが(笑)、そのこだわりが素晴らしい！しかし、現在、納得住宅工房さんの標準仕様である漆喰壁も薩摩霧島壁もとても優れていて、申し分ないですよ！これまでも充分過ぎるほどハイスベックなのに…。

久保 MADURO STYLEは、さらなる新しい上質な価値を追求していくのが使命。その新しい上質な高みの一番手として欠かせないのが、やっぱり塗り壁なんです。今回、このイタリアで買い付けてきた「ジョルジオ グラエサン」という塗り壁専門メーカーが創る「ユーロスタッコ」は、身体に優しい天然素材であることはもちろん、顔料を混ぜることで自然な優しい色味とニュアンスのある自然な風合いに仕上がる壁なんです。身体にも見た目にも優しい…このイタリアの壁一つで住環境がこの上なく心地良い空間になるんです。ちょっと手を加えれば、アートウォールに仕上げることもできるんです。例えばこんな感じで…。

久保 これは凄い。確かに壁一つで空間の印象ガラリと変わりますね！一般の家庭が使う壁とは一線を画した



クオリティの高さですね。この壁は粉の状態です。それを水に溶かして練ったものを塗っていくのですが、このイタリアの塗り壁は最初からペースト状…つまり練られた状態で海上輸送で輸入します。封を開けても、かなり長い期間スライム状態で固まってしまうので、簡単に塗れるんです。

久保 それは面白い。色味はどのようにして選ぶのですか？
星野 白の壁材に天然素材の顔料を加えながら、好みの色味に仕上げていきます。顔料の割合により様々な色味が作れるので、色味、風合いが世界中に一つしかない壁に仕上がります。これが、この塗り壁をMADURO STYLE用に採用した最大の理由です。白い壁材を塗った後に、その上からスポンジを使って顔料を足していくことで、独自のお好きなニュアンスをつけることもできます。筆を使ってアート

な絵心を加えていく手法もあるのですが、さすがにイタリアから専門の絵師は連れて来られなかったもので、今回はそこまでできませんでした。しかし、近い将来MADURO STYLEで、塗り壁の絵師を雇うことも考えています。それほどまでに、塗り壁は上質な家創りに絶対的欠かせない、こだわりの最大ポイントなんです。

久保 なるほど！つまりは壁までが完全オーダーメイド！これぞ、上質な家創りの匠、そして極み。これがMADURO STYLEの家創りの標準仕様となるのですね！しかも、「絵師の手法」という、さらなる次の高みを目指している…。ちなみに家の中のどこに使うイメージですか？
久保 水回り以外のリビング、寝室、和室、玄関回りなどのアクセントとしても役立つてくれます。そもそも納得住宅工房には腕の良い塗り壁職人がいますから、このイタリアの塗り壁を自由自在に活用できるんです。

久保 どんな色の壁も作れてしまうのですか？
久保 どんな色の壁も作れます。しかし、今回、買い付けた顔料は白、ベージュ、グレー、黒の4色。なぜなら、前に連載で私が述べたように、家の中は白いキャンパスでなければいけません。住んでいくうちにいろんな物が家の中に増えていき、いろんな色味がプラスされていくから。だから、今回は、シンプルでモノトーンのみ。もちろんジョルジオグラエサン社は明るい色味も揃えているのですが、赤や黄色の壁をMADURO STYLEの家創りに用いるつもりはありません。白、ベージュ、グレー、黒の4色だけで、充分に大理石風や和の雰囲気を作り上げる事ができます。これによって、塗り壁のバリエーションが10倍増しになりました。MADURO STYLEならではの上品なセンスのいいシンプルで高級感、このイタリアの塗り壁により約束されました！

な絵心を加えていく手法もあるのですが、さすがにイタリアから専門の絵師は連れて来られなかったもので、今回はそこまでできませんでした。しかし、近い将来MADURO STYLEで、塗り壁の絵師を雇うことも考えています。それほどまでに、塗り壁は上質な家創りに絶対的欠かせない、こだわりの最大ポイントなんです。

イタリアバイヤー紀行③ 「ヴィーヴァ @ブリアンツァ」

納得住宅工房久保社長はじめ家創りのプロが住居回りの上質な最新建材を探すイタリア住宅バイヤー紀行第3回は、ミラノから車で北に30分、有名家具ブランドがひしめき合うブリアンツァ地方に移動。上質なイタリア製ドアをMADURO STYLEのために打ち合わせしてきました。



長年の付き合いでもあるヴィーヴァ社の社長と撮影する久保社長。イタリア人らしい気さくさも魅力です。

大久保 今回のイタリアでの収穫は、洗面台と塗り壁の他に、イタリア製のドアなんてすよね！

久保 はい！納得住宅工房にとって欠かすことのできない標準仕様のイタリア製のドアも、MADURO STYLEの家創りのために、さらに進化させてオーダーしてきました。

大久保 連載でこれまで幾度となく納得住宅工房さんが設計されたお宅を取らせて頂きましたが、あの天井まで

届くような高くてぶ厚い艶感が美しいイタリア製ドアですよね!?

久保 はい。現在、納得住宅工房で標準仕様となっているドアが、イタリアはブリアンツァ地方の建具メーカー「ヴィーヴァ」社が作る「ラ・ヴィーヴァ」です。5・8cmという一般的に使用されているドアの倍近い厚みと、2m40cmという天井まで届くほどの高さが最大の特徴です。ポリエステル塗装による鏡面仕上げの艶やかな質感も相まって白、黒、グレーが基調となる家の中で格好の存在感を放ちます。また、丁番：いわゆるドアの繋ぎ目が見えにくいように工夫までされたミニマルなデザインや、半永久的に使えるような重厚な真鍮製レバーハンドルなど、ディテールへのこだわりも余念がありません。そんなヴィーヴァ社とは、そもそもずっと長く我々と一緒にドアの開発をしている深いお付き合いなんです。なので、今回MADURO STYLEで使用するドアも、こちらのリクエストを積極的に聞いて新しく開発してくれるのです。

大久保 素晴らしい関係性ですね！最新技術で軽量化されるプロダクトが多い中で、重厚感こそが上質の発露となるプロダクトもあると思うんです。その最たる例がドアで、例えば車でもドアが軽いと、どうしてもチープな印象を受けてしまう一方、オーバークオリティなほど重厚なドアを持つ一部の欧州車は、それだけで上質感が感じられます。私がヴィーヴァ社のドアに感心したのは、深い色味や上質な艶感もさることながら、ガチャリと重い音を立てるドアのレバーハンドルの質感と手触り、ドアを開け閉めしたときの

心地良い重みでした。前に連載で訪問させていただいたガレージのある家のご主人が、「毎日の生活の中で上質な物に触れることは、子供の感性に良い影響を与えてくれる気がします。」とおっしゃっていました。私はこのドアの開け閉めするときの重厚感とドアハンドルの質感自体が、良いものに触れながら育つ：つまり、知育に繋がるというのはいきすぎでしょうか!?

久保 そうなのかもしれませんね！車もそうですが、ドアは家や部屋に入るために設けられたファーストアプローチとなる調度品。毎日の生活の中でずっと無意識に日常的に触れる物。だからこそ、ドアの触り心地や上質感を、とてつもなく重要と考えています。この上質感こそが、知らず知らずのうちに脳や心に良い刺激、良い効果をもたらしているかもしれませんね！

大久保 想像しただけでワクワクしますね。ドア一つの細部にもこだわって、アップデートしていく：この上質感へのあくなき追求こそが、SDGsな家創りのベースなんです！ちなみに何色が追加されるのでしょうか? **久保** 取り急ぎ白、黒、グレー、ネイビーの4色を発売してきました。蛇足ですが、このMADURO STYLEのために発注した新しいドアは、イタリアの美術館の名前を拝借して「ブレラ」と名付けたのですが、いかがですか? **大久保** 最高ですね！マットなネイビーなんて、さぞや素敵なんじゃない! ネイビースーツに茶系のタイや靴を合わせる「アズーロ・エ・マローネ」というイタリアならではの質感のある色合わせの着こなしがあります。納得住宅工房さんの家で多用されている凸凹感のあるダークブラウンの無垢の床に、重厚感のあるネイビーのマットな質感のドアが入ったら、まさにイタリア的サステイナブルな「成熟した上質空間」になりますね!



普段から納得住宅工房で使用しているヴィーヴァ社のドア。今回、MADURO STYLEで使用するにあたり、角が丸くなったものにアップデート。角ばっているものに比べて、ドアに優しい表情を与えてくれます。

久保 そうですね。私はヴィーヴァ社の代表の「ドアは家具である」という想いにとっても感銘を受けました。イタリアでは住のセンスとファッションのセンスがイコールなんです。日本の住居に比べて、何歩もセンスが先をいっています。そうそう、フローリングもMADURO STYLE用にアップデートしています。より凸凹感を出してムラつ気を際立たせた床の表情は、まさに成熟という表現がピッタリ。きっと大久保さんも気に入ってくれると思います!

イタリアバイヤー紀行④ 「とある2つの小さな街に 上質な家のヒントあり」

今回はイタリアの街から受ける家創りのインスピレーションについて対談。イタリアの街の中で MADURO STYLE プロジェクトにとって大切なヒントやアイデアは、見本市の街ポローニャと湖のある小さな街シルミオーネだったんです。そんなポローニャとシルミオーネに家創りのヒントを見つけた!というお話です。

と思うのでしょうか？

星野 ポローニャは、一見すると赤い石造りの家が立ち並ぶ田舎町なんです。世界中のいろいろな見本市が行われる、イタリアの産業の拠点なんです。革製品やアパレル、とりわけファストファッションの工場が多い街で、セラミック製品を製造しているメーカーのメッカでもあります。住だけでなく、ファッションを始め衣食住全般のライフスタイル全体を考えてこそ、MADURO STYLE の上質な家創りです。そういった意味でポローニャには、いろんなインスピレーションやヒントがあると思っています。

大久保 久保社長と星野さんとMADURO STYLE の家創りのためのイタリア紀行について、これまでであれこれお話をしてきましたが、ミラノやベネチア、ローマよりもポローニャやシルミオーネと言う街を大変に推していますが、なぜこの2つの小さな街が、MADURO STYLE の家創りでヒントやインスピレーションになる

大久保 たしかに！ 食でも生ハムは有名ですし、ボールボキューズ一族がわざわざ訪れる美味しくて、調度品も素敵な一軒家レストランもありますよね！私もLEON時代やオーシャンズ時代に、ミラノコレクション最中に車を飛ばして、ポローニャのレストランまで行きました！ 革工場や革小物の展示会にもポローニャまでよく行き

ました！

星野 この辺りはメゾンブランドのOEMを手掛けるニッターの集積地で、2年後のファッションの流行色を身近に感じることが出来ます。彼らがどの色の糸を採用するかで世界のファッショントレンドが左右しますのでも、コレクションを発表するミラノよりも重要な街といえなくもありません。**大久保** ミラノからポローニャまで日帰りで行ける距離ですよ！

星野 そうですね！ 特急電車でも1時間、車で約2時間、東京静岡間の距離とほぼ同じです。ポローニャ発祥の地だけあって、肉料理が抜群に美味しいんですよ。ニョッコフリットという揚げパン、スパークリング赤ワインのランブルスコも有名です。また、ランボルギーニの創業地でもあり、工場だけでなく第1号車が展示されている博物館も車好きなら必見です。ポローニャで2日間ガッツリ商談をしてから、シルミオーネという街へ向かいました。**大久保** シルミオーネには何を目的に行かれたんですか？

では静岡に似ているのかもしれませんが。

大久保 シルミオーネの街並みから、なぜ家創りにインスパイアされるのでしょうか？

久保 古代ローマ時代に作られた世界最初の温泉保養地だけあって、水の使い方や庭の概念、お城の荘大なイメージを後押しするようなライティングに、納得住宅工房の家創りにおいて大きなヒントとなりました。納得住宅工房のウォーターガーデンやパティオ、間接照明はシルミオーネからインスパイアされているのかもしれない。またヨーロッパの富裕層が集まるので、その集まる理由の中にも上質な家創りのヒントがあるのです。**大久保** MADURO STYLE の家創りはファッション的センスや内装や外観、キッチンがポローニャ、そして中庭や自然光のライティング、お風呂回りがシルミオーネにインスパイアされているのですね！

久保 シルミオーネはただ骨休めに

行っているわけではないんです。納得住宅工房の家創りは、富士山をはじめ川、湖に代表される、静岡の土地や自然が持つパワーを最大限使わせていただいているのです。その中でシルミオーネは、自然の中に住宅を融合させることに気づかせてくれました。納得住宅工房の家創りが標榜すべき聖地と言っても過言ではありません。ポローニャやシルミオーネは、私達が見習うべき地域活性化の原点であると感じていました。イタリアはどの街も地方創生が根付いている感があります。

大久保 日本は東京一極集中で、地方創生、地域活性化が叫ばれていますが、たしかにイタリアはどの田舎町でもそれぞれに持ち味がありますね！ 久保社長がおっしゃるとおり、イタリアの地方の街にMADURO STYLE が目指すべき地域活性化のヒントがありますね！



欧州の富裕層たちがバカンスを過ごしにくるシルミオーネ。スパなどの温泉保養所や湖があることからイタリアの箱根と呼ばれています。

星野 それはですね、大きな声では言いにくいのですが、観光です(笑)。ヨーロッパの富裕層たちがペローニャという街の野外劇場でオペラを鑑賞した後に訪れる街がシルミオーネです。日本ではまだあまり知られていないですが、日本で言えば箱根みたいな感じですが、人口1万人以下の小さな街ですが歴史ある温泉保養地で、上品なお金持ちの方が集まります。ガルダ湖という湖に囲まれているので、マスやウナギなどの淡水魚や、フレッシユなオリーブやレモンにボルチーニ草が堪能できることでも知られています。そういった意味

【納得住宅工房 Co.,Ltd.】代表取締役 CEO

大久保 淳

1999年、納得住宅工房を設立。2019年現在、静岡県内にショールーム5店舗とモデルハウス2棟を展開。住宅、エクステリアに関する数々の賞を受賞。施主の感性や理想を引き出す設計提案、欧州のトレンドや伝統を取り入れた建材やオーガニック素材、ハイスペックな住宅性能をトータルコーディネートしたオーダーメイド住宅を年間150棟ほど手掛けている。アパレルショップ「ポルタロッサ」のオーナーでもある。https://www.nattoku.jp

【納得スタイルホーム】代表取締役

星野 貴久

イタリアの有名家具ブランド、アルフレックスの椅子張り職人をはじめ、建材メーカー、家具メーカー、アパレルブランドのエージェントとして16年間をイタリアで生活。100社以上のイタリアメーカーを日本上陸させた経験を持つ。工務店の業務を支援し、納得住宅工房の家創りを全国に広める納得スタイルホームに2014年入社。2019年に代表取締役社長に就任する。イタリア建材の伝道師にしてレバンフリークな二児のパパでもある。https://www.nattoku-club.jp

【RR デジタルメディア】代表取締役

大久保 清彦

「LEON」を企画創刊し、その後「OCEANS」、「ローリング・ストーン 日本版」を企画創刊。「ヨガジャーナル 日本版」のオンラインを立ち上げ、セブン&アイ出版の常務執行役員を経て、2018年に設立したRR デジタルメディアでは、自身が総編集長を務める「MADURO」の他、「ソトコト」、「THE RAKE」を傘下に収め、オンライン化を果たす。自身も一児のパパとして、仕事と子育ての両立に奮闘中。https://maduro-online.jp

より詳しく知りたい人はMADURO STYLEのWEBサイトへ
www.maduro-style.com